

# BEST AVAILABLE COPY

⑩日本国特許庁

⑪特許出願公開

## 公開特許公報

昭53—34126

⑤Int. Cl.<sup>2</sup>  
F 16 L 21/08

識別記号

⑥日本分類  
65 A 311

府内整理番号  
6802—26

⑦公開 昭和53年(1978)3月30日

発明の数 1  
審査請求 未請求

(全 3 頁)

### ⑧内面接合式耐震管継手

保田鉄工株式会社武庫川製造所  
内

⑨特 願 昭51—110118

⑩発明者 相良隆雄

⑪出 願 昭51(1976)9月13日

尼崎市大浜町2丁目26番地 久

⑫発明者 山路忠雄

保田鉄工株式会社武庫川製造所

尼崎市大浜町2丁目26番地 久

内

保田鉄工株式会社武庫川製造所

内

同 中島銳

尼崎市大浜町2丁目26番地 久

⑬出願人 久保田鉄工株式会社

大阪市浪速区船出町2丁目22番

地

⑭代理人 弁理士 森本義弘

### 明細書

#### 1. 発明の名称

内面接合式耐震管継手

#### 2. 特許請求の範囲

受口をシール材接着位置から先端側に延出する  
と共にその先端部内周に環状溝を設け、該溝内  
には押口外周面に設けた抜け出し阻止用保合段  
面に保合する1つ割ロツクリングを嵌入し、該ロ  
ツクリングの外周面は受口奥側ほど小径となるテ  
ーピングー テーピングー テーピングー テーピングー

互いに嵌合された受口押口間の管軸方向一定範囲  
内の相対移動は許すが、それ以上の移動に起因する  
相互間の抜け出しは確実に阻止することによつ  
て達成される。本発明はこの様な内面接合式耐震  
管継手の提供を目的とするものである。

以下、本発明の一実施例を図面に基づいて説明  
すると、(1)は受口、(2)は押口であり、(3)は受口(1)  
内周のシール材接着テーパ面(4)と押口外周面との  
間に介装されたシール材である。(5)はシール材(3)  
テーパー テーパー テーパー テーパー テーパー

# BEST AVAILABLE COPY

着位置から先端部に延出し、この延出部(1a)の先端内周に、押口抜け出し阻止用1つ割ロツクリング凹印を収容する環状溝凹印が設けられている。この1つ割ロツクリング凹印位置に対応して押口(2)外周面には、幅広の環状溝凹印が凹設され、該環状溝凹印の管軸方向両端の段面(12a)(12b)が前記ロツクリング凹印の側面に保合することにより受口と押口との相対移動範囲が規制されている。従つて、環状溝凹印の巾はロツクリング凹印の巾と受口押口間の相対移動量との和に等しい。なお、前記段面(12a)(12b)の内押口(2)先端部の段面(12a)は押口抜け出し阻止用段面として機能するため不可欠であるが、段面(12b)の機能は押口(2)先端と押輪(8)又は受口奥端段面(7)との保合によつても果すことができる。この場合環状溝凹印のかわりに段面(12a)を形成する様に押口先端部に突部を設けることもできる。前記ロツクリング凹印は、その外周面を受口奥端ほど小径となるテープ面凹印に形成され、かつ前記シール材(3)とこのロツクリング凹印との間の、受口内周面と押口外周面の環状空間に、先端が前

記テープ面凹印に保合するデイスタンスリング(4)が介接されており、このデイスタンスリング(4)先端がテープ面側に保合することにより、ロツクリング凹印の拡径を阻止し、段面(12a)との保合による押口の抜け出し阻止機能を確実ならしめている。前記デイスタンスリング(4)は通常円周1つ割で、受口内周面側に沿う様に比較的弱い拡径付努力を有するのが望ましく、また管軸方向に複数分割することにより押口先端と受口奥端段面(7)との間の空間からの装入が容易となる。さらに、本実施例では前記押圧手段(5)において、押輪(8)を受口奥端段面(7)に保合させ、押しボルト(9)頭部を削輪(6)に保合させ、かつ押しボルト(9)を押口(2)外周面よりも外方に位置させることにより、十分な受口押口間の相対移動距離を確保しながら、受口延出部(1a)の長さをできるだけ短くしてある。なお、押輪(8)は周方向複数分割で、適宜留め金具にて固定される。

管接合に際しては、受口(1)先端の環状溝凹印に予じめロツクリング凹印を装入収容しておき、この受

口(1)に押口(2)を挿入する。その後、管内面側から、押口(2)先端と受口奥端段面(7)との間の空間を通して受口(1)内周面と押口(2)外周面間の環状空間にデイスタンスリング(4)、シール材(3)、削輪(6)を順次挿入し、押圧手段(5)によつて削輪(6)を介してシール材(3)を押圧すれば、シール材(3)が受口内周面と押口外周面に圧接されて水密が確保され、それと同時にデイスタンスリング(4)が受口(1)先端部に押されて、その先端がロツクリング凹印のテープ面凹印に保合し、その拡径が阻止され、ロツクリング凹印と抜け出し阻止用段面(12a)との保合が確保される。

本発明は、以上の実施例に示した様に実施し得るものであつて、内面接合式管接手において比較的簡単な構成で耐震機能を合わせ持たせることができ、しかもその接合作業も簡単であり、さらにデイスタンスリングとロツクリング外周テープ面との保合により抜け出し阻止機能に信頼性を有する等、多大の効果を有する。

## 4. 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示す断面図である。

(1) - 受口、(2) - 押口、(3) - シール材、(4) - シール材接着テープ面、(5) - 押圧手段、(6) - 削輪、(7) - 受口奥端段面、(8) - 押輪、(9) - 押しボルト、(10) - ロツクリング、(11) - 環状溝、(12a) - 抽け出し阻止用段面、(13) - ロツクリング外周テープ面、(4) - デイスタンスリング

代理人 森 本 雄 弘

BEST AVAILABLE COPIE

